

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	区民会館費	部課名	区民生活部区民課	課長名	正木良一
		担当者名	山田智子	内線	2513
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	区民会館管理運営費（09-56-50） 営繕費（一般分）（09-60-33） 営繕費（計画工事）（09-60-66）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	49年度	根拠	荒川区区民会館条例及び条例施行規則
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	荒川区民会館を広く区民の利用に供するとともに、利用者サービスの向上を図るため、施設状況を良好に保持し、適切な管理運営を行う。				
対象者等	区民及び一般市民 利用者1人当りの経費 = (施設管理運営経費 - 特定財源) ÷ 利用者数 利用者数：平成17年度実績239,091人（延べ）617円/1人 平成18年度実績226,149人（延べ）773円/1人 平成19年度実績306,870人（延べ）546円/1人 平成20年度見込322,213人（延べ）511円/1人				
内容	名称：荒川区民会館（愛称 サンパール荒川〔昭和56年度区民公募〕） 所在地：荒川区荒川1-1-1 電話：(3806)6531 開館：昭和50年3月28日 開館時間：午前9時から午後10時まで（受付は午後8時まで） 休館日：年末年始（12月29日から1月3日） 構造・規模：鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階、地上6階、塔屋、述床面積10,044.09㎡ 施設の概要 大ホール（1階）収容人員1,120席 面積1,161.88㎡ 小ホール（3階）収容人員 300席（移動席）面積 281.09㎡ 集会室（4階）第1洋室 人員32名 面積78.07㎡、第2洋室 人員50名 面積72.56㎡ 第3洋室 人員50名 面積84.75㎡、第4和室 人員40名 面積89.81㎡ 第2・3は通し使用可能 披露宴会室 高砂（第5集会室）洋室 人員 50名 面積 91.60㎡ 羽衣（第6集会室）洋室 人員 50名 面積 99.25㎡ 高砂・羽衣は通し使用可 末広（第7集会室）洋室 人員100名 面積184.34㎡ 結婚式場・付属室 結婚式場（約40名 面積110.72㎡）、控え室、写真室、美容室、衣装室 その他 区民ロビー、レストラン、地下駐車場				
経過	昭和50年 3月28日 荒川区民会館オープン 昭和56年11月1日 愛称：サンパール荒川（区民公募） 平成2年 4月1日 財団法人荒川区地域振興公社に管理運営を委託 平成4年 4月1日 改修工事のため休館（同年10月31日まで） 平成15年 4月1日 荒川区民会館・日暮里センターホール・ムーブ町屋の3館の舞台機構管理、受付及び機械設備保守委託等の各業務について、一元化して第三者への再委託を行い、大幅な経費削減を図った。 平成18年 4月1日 「指定管理者制度」導入により管理運営をMKT共同事業体が代行。 毎週月曜日を閉館するとともに、年末年始の休館日を8日間から6日間に短縮。				
必要性	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、必要性は高い。				
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者 MKT共同事業体（三菱電機ビルテクノサービス(株)・(株)共立・(株)アターゴ） 20年度当初予算 指定管理者委託料 178,234,885円 19年度決算 指定管理者委託料 183,429,390円、18年度決算 指定管理者委託料 178,958,637円 舞台機構管理、受付、設備機器保守等の各業務は第三者再委託を原則認めない。工事、大規模修繕、備品購入は委託から除く。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	248,219	235,131	230,190	210,174	193,240	247,470	213,053	
決算額（20年度は見込み）	238,497	220,725	212,945	190,302	191,123	240,377	213,053	
人件費				2,586	2,562	5,551		
【事務分担当】（%）				30	30	65		
合計（+）	238,497	220,725	212,945	192,888	193,685	245,928	213,053	
その他（特定財源）	54,898	54,677	51,440	42,723	16,271	15,700	13,530	
一般財源	183,599	166,048	161,505	150,165	177,414	230,228	199,523	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	大ホール利用回数	327回	339回	308回	388回	390回	451回	522回
	小ホール利用回数	459回	443回	442回	489回	542回	560回	579回
	集会室利用回数	1,628回	1,524回	1,632回	1,686回	1,838回	1,777回	1,718回
	披露宴会室利用回数	444回	412回	446回	585回	873回	848回	824回
	結婚式場利用件数	28件	18件	16件	7件	4件	5件	5件

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
予 算 ・ 決 算 の 内 訳	委託料	指定管理者委託料(管理費)	45,712	指定管理者委託料()	174,081	指定管理者委託料()	168,873
		指定管理者委託料(運営費)	124,904				
		指定管理者委託料(営繕費)	8,343	指定管理者委託料(営繕費)	9,349	指定管理者委託料(営繕費)	9,362
		CATV再送信委託	1,257	CATV再送信委託	1,265	CATV再送信委託	1,280
	光熱水費	電気ガス水道料(18年3月分)	3,010				
	備品購入費	厨房冷凍冷蔵庫・冷凍庫	2,305	折りたたみテーブル他	2,950	冷凍庫、製氷機他	3,938
	負担金補助	公立文化施設協議会	25	公立文化施設協議会	25	公立文化施設協議会	25
	工事請負費	防災・防火ダンパー改修工事	5,567	エレベーター全面改修工事等	40,845	バルコニー防水改修他	18,821
				非常用蓄電池改修	4,421		

H19年度より管理費と運営費を一本化

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
		大ホール貸出し稼働率	51.8%	39.2%	49.3%	57.4%	
小ホール貸出し稼働率	60.6%	53.6%	56.7%	59.3%	64.1%		
集会室貸出し稼働率	49.3%	44.3%	44.1%	42.4%	63.1%		
披露宴貸出し稼働率	22.8%	28.3%	28.0%	27.1%	26.1%		
結婚式場貸出し件数(披露宴のみも含む)	7件	4件	5件	5件	10件		

(問題点・課題)	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設利用の一層の利用率アップ対策（18年度は月曜開館によりホールの稼働率が若干低下した） 2 施設の老朽化対策（早急に長期修繕計画を作成し、効率的な改修をする時期にきている） 平成4年の改修で見送られた、排水管、給水管等の修繕 3 効率的な運営方法への改善
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
施設利用の利用率アップ対策 指定管理者による各種自主事業の実施。	利用率（施設の稼働率）のアップ
老朽化に対応するため、大規模改修等を検討する。	利用率（施設の稼働率）のアップ

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、優先度は高い。

議会（要旨）状況	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	日暮里サニーホール費	部課名	区民生活部区民課	課長名	正木 良一
		担当者名	湯川 和徳	内線	2513
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	日暮里サニーホール管理運営費（09-76-33）日暮里サニーホール共用部分等修繕（09-76-66） 日暮里サニーホール営繕費（計画工事等）（09-80-66）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	元年度	根拠法令等	日暮里サニーホール条例及び条例施行規則
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	日暮里サニーホールを広く区民の利用に供するとともに、利用者サービスの向上を図るため、施設状況を良好に保持し、適切な管理運営を行う。				
対象者等	区民及び一般市民 利用者1人当りの経費 = (施設管理運営経費 - 特定財源) ÷ 利用者数 利用者数：平成17年度実績138,998人（延べ）408円 / 1人 平成18年度実績132,547人（延べ）502円 / 1人 平成19年度実績136,511人（延べ）521円 / 1人 平成20年度見込143,337人（延べ）691円 / 1人				
内容	所在地：荒川区東日暮里5-50-5 電話(3807)3211 ホテルラングウッド4・5階 開館：平成元年2月9日 開館時間：午前9時から午後10時まで(受付時間は午後8時まで) 休館日：年末年始(12月29日から1月3日まで) 規模等：延床面積 2,311.28㎡ 施設の概要 多目的ホール 収容人員500名(フラット時) / 面積404㎡ コンサートサロン 収容人員100名(フラット時) / 面積113㎡ 会議室 第1会議室 収容人員24名(面積57㎡) 第2会議室 収容人員12名(面積25㎡) 第3会議室 収容人員12名(面積28㎡) 第2,3会議室は通し使用可能				
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年 2月 9日 日暮里サニーホールオープン（財団法人荒川区地域振興公社に管理運営を委託） ・平成15年 4月 1日 荒川区民会館・日暮里サニーホール・ムーブ町屋の3館の舞台機構管理、受付及び機械設備保守等の各業務について、一元化して第三者への再委託を行い、大幅な経費の削減を図った。 ・平成16年11月30日（財）中央労働福祉センター解散。(株)三菱UFJ信託銀行が区と覚書を取交し、財団の業務を引継ぐ。 ・平成18年 4月 1日 「指定管理者制度」導入により管理運営を(株)シーピーシーメソッドが代行。 年末年始の休館日を8日間から6日間に短縮。 				
必要性	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、必要性は高い。				
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 指定管理者名 (株)シーピーシーメソッド(18年度より指定管理者制度導入) 20年度予算 指定管理者委託料50,426,650円 19年度実績 指定管理者委託料50,997,159円 18年度実績 指定管理者委託料52,435,522円 舞台機構管理、受付及び機械設備保守等の各業務の第三者への再委託を認めない。工事、大規模修繕、備品購入は委託から除く。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	141,161	124,396	113,771	106,144	67,347	69,253	99,168	
決算額(20年度は見込み)	135,488	118,872	110,602	101,536	66,622	67,881	99,168	
人件費				2,586	2,562	3,416		
【事務分担当量】(%)				30	30	40		
合計(+)	135,488	118,872	110,602	104,122	69,184	71,297	99,168	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)	45,821	47,315	45,518	44,888	117	114	100	
一般財源	89,667	71,557	65,084	59,234	69,067	71,183	99,068	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	ホール利用回数	588回	568回	594回	583回	595回	601回	607回
	サロン利用回数	874回	864回	825回	846回	871回	852回	833回
	集會室利用回数	3,826回	4,119回	4,165回	4,096回	4,028回	4,007回	3,986回

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	委託料	指定管理料(管理費)	42,829	指定管理料()	50,997	指定管理料等()	50,426
		指定管理料(運営費)	9,607				
	工事請負費	音声拡声装置の改修他	6,090	舞台防音壁レール等改修	5,408	工事請負費	14,903
	備品購入費	引割幕、その他(備品)	1,114	折りたたみ机他	3,965	プロジェクト-他	3,997
	負担金補助	共用部分等計画修繕	6,982	共用部分等計画修繕	7,511	共用部分等計画修繕	7,685

19年度より管理費と運営費を一本化

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
標	ホール貸出し稼働率	63.8%	62.0%	65.5%	63.2%	70.0%	利用回数 / 利用可能回数 20年度は前年増減率より算出。
	サロン貸出し稼働率	85.4%	87.6%	86.0%	85.3%	90.0%	
	会議室貸出し稼働率	78.8%	78.9%	77.3%	77.6%	82.1%	

(問題点・課題分析)	<p>開館より19年を経て、壁・床面・天井等の破損や汚れ等、施設全体の老朽化が目立ち始めている。ホテルに併設された施設であること等特殊な事情を勘案した計画的な修繕が必要である。</p> <p>ACCの文化事業及び一部サークルの継続的施設予約により、指定管理者による自主事業の日程の確保が困難な状況である。</p>
他区の実施状況	(実施 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
平成21年度より新たに指定管理期間となるにあたり、今まで以上に、ホテルラグウッドとの管理運営上の調整を密にする体制を整えていく。	今まで以上の効率的な施設運営による省エネ効果や、計画的な施設修繕等が期待できる。
付帯施設の各種機器の老朽化による新機種への更新	質の高い芸文事業が提供でき、かつ利用者のニーズに合った設備を整えることにより利用率の向上が見込まれる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、優先度は高い。

議会質問状況(要旨)	
------------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	ムーブ町屋費		部課名	区民生活部区民課	課長名	正木 良一
			担当者名	小井戸 徹	内線	2514
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	ムーブ町屋管理運営費（10-16-50）		ムーブ町屋営繕費（計画工事等）（10-32-60）			
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	8年度	根拠法令等	荒川ムーブ町屋条例及び条例施行規則	
終期設定	有	無	年度			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]				
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]				
	施策	芸術・文化の振興[09-01]				
目的	ムーブ町屋を広く区民の利用に供するとともに、利用者に対するサービス向上を図るため、施設状況を良好に保持し、適切な管理運営を行う。					
対象者等	区民及び一般市民 利用者1人当りの経費 = (施設管理運営経費 - 特定財源) ÷ 利用者数 利用者数：平成17年度実績121,414人（延べ）517円/1人 平成18年度実績134,311人（延べ）564円/1人 平成19年度実績125,015人（延べ）601円/1人 平成20年度見込131,266人（延べ）675円/1人					
内容	所在地：荒川区荒川7 5 0 9 センターまちや3・4階 電話：(3819)7761 開館時間：午前9時から午後10時まで（受付時間は午後8時） 休館日：年末年始（12月29日から1月3日） 開館：平成8年6月1日 規模等：延床面積2797.17㎡ 施設の概要 多目的ホール 収容人員296席/面積343㎡（舞台、電動式椅子を収納した場合） ハイビジョンルーム 収容人員70席/面積59㎡/スクリーン大きさ3.4m×1.9m 多目的展示室 収容人員28名（椅子のみ使用時は40名）/面積70㎡ スタジオ 収容人員10名程度/面積51㎡ 企画展示コーナー オープンスペース/面積387㎡ 壁面（コの字型）：高さ3.3m×幅37.5m、天吊り移動式の展示版：2.5m四方 その他 住民票・印鑑登録証明書自動交付機（平成8年6月開設）チケットぴあスポット（平成18年3月閉鎖）					
経過	平成8年6月1日 ムーブ町屋オープン（財団法人荒川区地域振興公社に管理運営を委託） 平成15年4月1日 荒川区民会館・日暮里サニーホール・ムーブ町屋の舞台機構管理、受付及び機械設備保守等を一元化して第三者への再委託を行い、大幅な経費削減を図った。 平成16年4月1日 インターネット運営費をムーブ町屋の事業と位置付け、「公社運営費」から「ムーブ町屋運営費」に組替える。 平成17年3月31日 インターネットの普及状況等を踏まえ、インターネットスポット事業を廃止。 平成18年3月31日 「チケットぴあ」閉鎖 平成18年4月1日 「指定管理者制度」導入により管理運営を株式会社「シーメソッド」が代行。 年末年始の休館日を8日間から6日間に短縮。					
必要性	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、必要性は高い。					
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者名 (株)シービーシーメソッド（18年度より指定管理者制度導入） 20年度当初予算 指定管理者委託料35,704,100円 19年度決算実績 指定管理者委託料35,537,405円 18年度決算実績 指定管理者委託料35,561,633円 舞台機構管理、受付及び機械設備保守等の各業務の第三者への再委託を認めない。工事、大規模修繕、備品購入は委託から除く。					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	118,388	108,437	103,730	100,095	78,191	95,390	94,115	
決算額（20年度は見込み）	115,736	103,435	99,748	93,840	77,409	91,759	94,115	
人件費				2,586	2,562	2,989		
【事務分担量】（%）				30	30	35		
合計（+）	115,736	103,435	99,748	96,426	79,971	94,748	94,115	
その他（特定財源）	24,259	25,300	29,757	31,086	1,628	301	64	
一般財源	91,477	78,135	69,991	65,340	78,343	94,447	94,051	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	多目的ホール利用回数	465回	499回	609回	661回	622回	554回	493回
	ハイビジョンルーム利用回数	473回	507回	469回	476回	423回	445回	468回
	多目的展示室利用回数	651回	718回	649回	662回	627回	608回	590回
	スタジオ利用回数	760回	765回	697回	701回	648回	706回	769回
	ギャラリー利用回数	537回	471回	630回	609回	741回	615回	510回

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理者委託料（管理費）	20,323	指定管理者委託料（ ）	35,537	指定管理者委託料（ ）	35,705
	指定管理者委託料（運営費）	15,239				
	チケットぴあ案内板書替え委託	40				
備品購入費	ソースフォー（照明器具）、コンデンサマイク	347	コンデンサマイク・照明他	2,972	照明用品等	3,811
負担金補助	管理業務協定に基づく分担金（管理費）	36,218	管理業務協定に基づく分担金	36,626	管理業務協定に基づく分担金	37,338
工事請負費	チケットぴあ案内板撤去工事	580	音響設備改修工事	4,620	加湿器増設工事等	5,486
	音響設備改修工事	4,662	舞台床他改修工事	12,005		

19年度より管理費と運営費を一本化

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値（22年度）	
	多目的ホール稼働率	67.0%	61.9%	59.8%	49.1%	75.0%	利用回数 / 利用可能回数 20年度は前年増減率より算出。
	ハイビジョンルーム稼働率	46.0%	40.3%	42.3%	46.6%	60.0%	
	多目的展示室稼働率	64.1%	59.6%	57.7%	59.0%	70.0%	
	スタジオ稼働率	68.4%	62.0%	67.2%	76.3%	80.0%	
	ギャラリー稼働率	59.4%	70.1%	58.5%	50.7%	70.0%	

（問題点・課題）	1	ハイビジョン機器等の技術進歩（機器のデジタル化、ソフト【DVD】対応機器等）により、現在使用しているハイビジョン機器で使えるソフトについては、製造会社で平成13年春から新製品の製造を中止している。また、ハイビジョン用のデッキを使用している利用者はほとんどない状況からも、有効活用のため見直しが必要である。
	2	ムーブ町屋の施設は、会議室の場所としての利用だけでなく、附帯の機器を含めた利用が多いため、それらの機器の保守管理が不可欠である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区 ）	

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
施設の有効利用を図るため、指定管理者の意見を参考に、利用者の使い勝手の良い施設として再構築する必要がある。	施設利用（稼働率）のアップ。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区民の文化の向上とコミュニティ活動促進を図る上で拠点として設けられた施設であり、優先度は高い。

議会状況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	文化振興事務費	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	相田真紀	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	文化振興事務費（07-60-50-01）				
事務事業の種類	新規事業	（20年度 19年度）	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠	西日暮里ギャラリー運営要綱
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区芸術文化事業共催要綱
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
	分野	文化創造都市[]		計画	非計画
行政評価事業体系	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	<p>（太平洋展荒川区長賞） （社）太平洋美術会が主催する太平洋展で優秀な作品に区長賞を授与し、区の文化水準を高める。 （荒川区芸術文化事業） 文化団体等が区内で自主的に開催する芸術文化事業に対し、その団体と事業を共同主催し芸術文化の振興と区民文化の活性化を図る。 （西日暮里ギャラリー） 西日暮里駅高架下に区民等が作品を展示するスペースを提供し、地域イメージの向上と区民文化並びに地域コミュニティの増進を図る。 （ディスカバークラカワ「区内の風景・風物展」） 風景画等をととして荒川の良さを再認識し郷土愛を育み、地域文化の向上を図る。</p>				
対象者等	<p>（太平洋展荒川区長賞） 一般 （荒川区芸術文化事業） 一般 （西日暮里ギャラリー） 一般 （ディスカバークラカワ「区内の風景・風物展」） 一般</p>				
内容	<p>（太平洋展荒川区長賞） （社）太平洋美術会が主催する太平洋展で優秀な作品2点に区長賞を授与する。 （荒川区芸術文化事業） 芸術文化事業を主催する文化団体と区が事業を共同主催する。要綱に基づき区は施設使用料等を負担する。 （西日暮里ギャラリー） 西日暮里駅高架下の9ヶ所の展示スペースを展示希望者に貸出す。最長2週間。 （ディスカバークラカワ「区内の風景・風物展」） 一般公募した区内の風景・風物テーマとした作品を一堂に展示し、優秀な作品に荒川区長賞（1点）、荒川区長奨励賞（3点）、社団法人太平洋美術会会長賞（2点）、荒川区美術連盟理事長賞（2点）を授与。</p>				
経過	<p>（太平洋展荒川区長賞） 平成9年度から太平洋展で、文部科学大臣奨励賞他の賞と共に荒川区長賞を授与している。 （荒川区芸術文化事業） 昭和63年度からACCの自主事業に補助金を交付していたが、平成11年度から休止し、共催事業とした。平成16年度に再開。 （西日暮里ギャラリー） 平成9年度に道路課が高架下の修景事業として設置。維持管理は道路課、運営は文化交流推進課。 （ディスカバークラカワ「区内の風景・風物展」） 平成7年度より太平洋美術会の協力で実施、17年度から新たに荒川区美術連盟の協力も得て、一般公募形式とし、授与する賞の数も増やした。平成19年度からは絵画以外に版画・染織・彫刻の出品も可とした。</p>				
必要性	<p>芸術文化活動は、人間の内面に対する探求を行うものである。芸術を鑑賞したり、自ら芸術文化活動を行うことは、区民の生活をより豊かにすることを可能にするものである。こうした地域の文化振興への取り組みは、区の重要な役割である。</p>				
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） （太平洋展荒川区長賞）太平洋展の初日に六本木の国立新美術館で授与。平成18年度までの会場は上野の東京都美術館。（荒川区芸術文化事業）共催を希望する団体の申請を受け、要綱に基づき承認する。団体が負担すべき施設使用料等は免除される。（西日暮里ギャラリー）申請を受け、要綱に基づき内容を審査し、承認する。6ヶ月前から受付、展示期間は2週間。平成18年度までの展示期間は4週間。（ディスカバークラカワ「区内の風景・風物展」）一般公募した区内の風景画等を一堂に展示し優秀な作品に賞を授与。</p>				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	451	380	320	297	2,700	4,488	3,444	
決算額(20年度は見込み)	243	215	191	195	2,622	4,339	3,444	
人件費				5,263	3,894	2,135		
【事務分担量】(%)				90	60	25		
合計(+)	243	215	191	5,458	6,516	6,474	3,444	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	243	215	191	5,458	6,516	6,474	3,444	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	太平洋展来場者数			12,484	11,335	13,870	14,009	18,037
	太平洋展出品作品数				899	881	1,011	954
	西日暮里ギャラリー展示件数	7	3	10	11	14	16	
	ディスカバークラカワ応募点数			80	80	86	100	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報酬	非常勤職員報酬	2,145	非常勤職員報酬	2,177	非常勤職員報酬
共済費	非常勤社会保険料	258	非常勤社会保険料	262	非常勤社会保険料	267	
旅費	近接地内旅費	16	近接地内旅費、特別旅費	55	近接地内旅費、特別旅費	95	
食料費	ロビーコンサート賄い	0	ロビーコンサート賄い	4	ロビーコンサート賄い	9	
一般需用費	区長賞記念品、事務用品	196	区長賞記念品、事務用品、交流都市紹介用展示パネル	556	区長賞記念品、事務用品、交流都市紹介用展示パネル	520	
手数料			紅白幕等クリーニング代	13			
筆耕翻訳料	賞状・感謝状筆耕	6	賞状・感謝状筆耕	28	賞状・感謝状筆耕	36	
委託料			交流都市展示ケース	1,232			
使用料及備品購入費			E T Cカード使用料	11	E T C、附帯設備使用料	279	
					デジタルカメラ購入	50	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
標	西日暮里ギャラリー展示件数	11	14	16		24	
	ディスカバーあらかわ応募点数	80	86	100		100	
	太平洋展来場者数	11,335	13,870	14,009	18,037	19,000	
	太平洋展出品作品数	899	881	1,011	954	1,000	

（問題点・課題分析）	・ディスカバーあらかわに協力する参加団体を増やすとともに、区民が気軽に参加、出展できるよう、オープンな絵画展としていく。
	（実施 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	ディスカバーあらかわには平成17年度から荒川区美術連盟が参加するようになった。連盟に加入していない美術サークル等に呼びかけをして参加団体の増を図ることを検討する。風景画だけでなく多様な美術作品の展示会とし、区民が気軽に参加・出展できるオープンな展示会をめざす。	より幅広く区民が美術・文化活動に参加できる美術展になる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	地域の文化振興への取り組みは、区の重要な役割である。

議会議決要旨	文化芸術振興条例の制定について（14年2定） 地域で文化芸術活動に貢献している人材の掌握と活動の支援について（14年2定） 仮称「荒川区アーティストバンク」の創設と支援策について（16年3定） 仮称「荒川区文化振興条例」の策定について（16年3定）
--------	---

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	緑と彫刻の街づくり事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	相田真紀	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	緑と彫刻の街づくり事業費（07-76-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	60年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
				計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	緑の多い広場、公園やゆったりとした歩道など、区民の多くが憩い、集う場所に彫刻を設置し、新しい景観、ゆとりと潤いの空間を区民に提供する魅力あるまちづくりを推進することを目的とする。				
対象者等	来街者				
内容	<p>生活にゆとりとやすらぎを創りだし、住み続けたい街、魅力ある街づくりの一環として彫刻を設置し、適切に管理するものである。</p> <p><設置場所の基本的な考え方></p> <p>(1) 区民や区外の人が多く利用し、区のシンボルとなる場所（本庁舎前、主要駅、多数の区民の集う拠点施設、大規模公園）</p> <p>(2) 区民が多く集まる場所（公園、児童遊園、グリーンスポット、区民施設等）</p> <p>(3) 特定区民の利用する場所（学校、校外教育施設等）</p> <p>設置場所、設置施設に適したシンボル性や親しみを感じていただけるものを設置してきた経緯がある。平成15年から平成18年は新規の設置は行わず、清掃・メンテナンス及び修繕のみ行ってきたが、平成19年から東京藝術大学卒業・修了制作作品立体部門に荒川区長賞を創設し、受賞作品は寄贈を受け、区内に設置している。</p>				
経過	「緑と彫刻の街づくり事業」として昭和60年度から公共の広場、公園、道路などに計58体（うち寄贈22体）が設置されている。また、平成15年度に、日暮里・舎人線建設工事に伴い、日暮里駅前道灌広場の太田道灌像と西日暮里5丁目交差点の飛翔像の移設を行った。平成19年度からは、東京藝術大学卒業・修了制作の彫刻作品を対象に荒川区長賞を授与し、受賞作品を区内に設置している。				
必要性	彫刻は、まちにゆとりとうるおいを創出し、地域文化の向上と区のイメージアップを図るため設置してきた。「豊かさの実感できる社会」の創造が求められるなか、設置した彫刻が区民に親しまれるよう適切に管理していくことが重要である。				
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>平成19年度実績 清掃メンテナンス（17体） 修繕（2体） 設置（寄贈1体・藝大区長賞2体）</p>				

		（単位：千円）						
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額	1,249	8,251	456	685	439	7,386	8,518
	決算額（20年度は見込み）	1,248	8,034	455	614	184	4,263	8,518
	人件費				1,724	1,570	1,708	
	【事務分担量】（%）				20	40	20	
	合計（+）	1,248	8,034	455	2,338	1,754	5,971	8,518
	国（特定財源）							
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	1,248	8,034	455	2,338	1,754	5,971	8,518	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	彫刻の清掃メンテナンス（体）			23	22	18	17	
	区内の彫刻数（体）	55	55	55	55	55	58	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	報償費			藝大区長賞副賞	2,014	芸大区長賞副賞、講師謝礼	3,038
	消耗品費			藝大区長賞消耗品	42	藝大区長賞消耗品	230
	印刷製本費			写真現像代	0	写真現像代	20
	物品修繕費	彫刻等小破損修繕	254	彫刻等小破損修繕	509	彫刻等小破損修繕	1,302
	郵送料					チラシ郵送料	20
	筆耕翻訳料			藝大区長賞表彰全文筆耕	11	藝大区長賞表彰全文筆耕	14
	清掃委託	彫刻清掃メンテナンス	185	彫刻清掃メンテナンス	184	彫刻清掃メンテナンス	394
	その他委託			彫刻・表示板設置	520	イベント実施委託	1,000
	工事請負費			彫刻設置工事	984	彫刻設置工事	2,500

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	区内の彫刻数（体）	55	55	58		62	区民が身近に鑑賞できる彫刻の数

（問題点・課題分析）	<p>屋外にある彫刻等については設置後十数年経過したため、今後、腐食や変色、台座部の損傷、亀裂等に対し、専門的見地からの補修の可否判断や定期的な保守点検管理が必要である。</p> <p>東京藝術大学卒業・修了制作作品荒川区長賞受賞作品を含め、新たに彫刻を設置していく際のコンセプトを明確にする必要がある。</p>
他区の実況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
今後、補修の必要性の高いものから優先順位をつけて修繕に取り組むなど計画的な管理が必要である。	より良い街の景観の維持を図る。
東京藝術大学卒業・修了制作作品荒川区長賞受賞作品について、今後5年間の彫刻設置計画を作成する。	計画をすることにより設置場所がスムーズに決定し、まちの景観が整う。作品の良さを活かすことができる。
設置した作品を紹介する彫刻マップの作成、作品をレクチャーする彫刻ガイドツアーの実施を検討する。	区内に数多く存在する彫刻をより区民にアピールすることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	藝大との連携も含め新たな視点での彫刻設置を推進する。

（状況）	<p>彫刻の設置について、区の財産としてどう活用するかという視点から集積効果も考えて検討してほしい。（14年決特）</p> <p>彫刻マップを作成し、区内外に彫刻の存在をアピールするべき。（19年1定）</p>
------	---

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	音楽のまちづくり推進事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	相田真紀	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	音楽のまちづくり推進事業（07-84-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	61年度	根拠	東京荒川少年少女合唱隊補助金交付要綱
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	音楽を中心とする地域文化の振興を図り、区の芸術文化の向上に寄与することを、目的とする。東京荒川少年少女合唱隊は、荒川区に本拠地を置き、合唱活動を通じての荒川区のイメージアップと区民の文化的水準の向上、青少年の健全育成に対する貢献は大きい。そこで、その活動を支援し、荒川区の文化振興を目的として、補助金を交付する。				
対象者等	東京荒川少年少女合唱隊（現体制） 代表：大村 光彦 指揮者：米谷 毅彦 団員数：34名（平成20年4月現在）				
内容	<p>「東京荒川少年少女合唱隊に対する補助金」 東京荒川少年少女合唱隊が計画及び予算を決定し行う事業で、区長が認めたものを補助対象事業とする。</p> <p>（1）区民の文化水準を高めるための区内公演。 （2）区を代表して行う公演。</p> <p>文化交流推進課では補助金交付のほか、平成15年度から区役所玄関ロビーで年2回ミニコンサートを開催した。また、川の手荒川まつりでの演奏、平成17年からは新年祝賀式に出演、済州市友好交流記念歓迎レセプションでも合唱を披露した。</p> <p>他の部署等では毎年2回芸術・文化事業で補助（ACC）をしているほか、平成17年度は創立40周年記念のため記録ビデオ「ここで唄いあげた日々（東京荒川少年少女合唱隊40周年、そして未来へ）」を作成（広報課）し、40周年記念コンサートへの補助（ACC）を行った。</p> <p>上記以外にも年間を通じて区内外で数多くの活動を行っている。（平成19年度実績：年2回の定期演奏会のほか、永野英樹ジョイントコンサート、ジョン・ラッター子どもたちのミサ、フジテレビ「ネプリーグ」収録、荒川区制施行75周年記念式典、ホテル ザ・ペニンシュラ東京キャロルコンサート、社会福祉協議会主催「未来への響2008」など、多数の演奏活動）</p>				
経過	合唱隊は、「ここで歌い上げる合唱芸術」を志して、昭和40年に初代常任指揮者故渡邊顯磨氏（九中英語教諭・平成8年死去）によって創立された。現在は指揮者 米谷毅彦氏のもと、内外で交響楽団と共演するなど活動の幅を広げながら合唱を通じて荒川区のイメージアップと区民の文化水準向上、青少年の健全育成に貢献している。メンバーは、小学生から高校生まで34名。週2回の練習を行っている。				
必要性	荒川区のイメージアップ、音楽を中心とした地域の芸術文化活動の広がりをもたらすため、全国的に知名度の高い合唱隊の活動を今後も支援していく必要がある。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 年度当初に補助金を交付し、年度末に事業内容を審査の上、補助金額を決定する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	1,929	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	
決算額（20年度は見込み）	1,929	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	1,852	
人件費				1,724	854	1,708		
【事務分担量】（%）				20	10	20		
合計（+）	1,929	1,852	1,852	3,576	2,706	3,560	1,852	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	1,929	1,852	1,852	3,576	2,706	3,560	1,852	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	演奏回数 （18年度までは区内での演奏回数）	13	18	14	12	12	20	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		負担金補助及び交付金	合唱隊に対する補助金	1,852	合唱隊に対する補助金	1,852	合唱隊に対する補助金

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	合唱隊隊員数	39	48	43	34	50	毎年4月現在の隊員数
	定期演奏会来場者数	887	1,026	871		1,100	年2回の定期演奏会の合計
	演奏回数	12	12	20		24	18年度までは区内での演奏回数

（問題点・課題 指標分析）	<p>区の行事などの際に活動の機会・場所を提供し、合唱隊を区民に積極的にアピールすることによって、隊員数が平成18年4月には前年に比べ9名増加したが、近年再び減少傾向にあるため、区としても隊員募集に関して積極的に協力していく必要がある。</p> <p>現在補助金の交付を通じ活動の支援をしている団体は合唱隊のみとなっているが、今後、音楽を中心とする区の地域文化・芸術文化の向上を進めていくためには、他の音楽団体への支援も検討する必要がある。</p> <p>区による直接的な支援とともに、区内企業・団体からも支援を受けられるような仕組みの構築について検討していく必要がある。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
演奏場所の提供、合唱隊のPRなどの面でも活動を補助していく。また、演奏会の機会の幅を広げるために、文化交流推進課が関係する行事だけでなく、他の部署で行われる行事にも出演できるように調整を図っていく。	隊員の増加と合唱隊活動の活性化が期待でき、音楽を中心とした地域文化の振興と区の芸術文化向上につながる。
荒川区を活動の本拠とし、荒川区民で構成される団体で、区内で活動の実績を有する他の団体も区民の財産として新たに補助対象として検討する。	上記目的の一層の推進につながる。
区が補助金を交付するという直接的な支援に加え、区内企業・団体からも支援を受けられるような仕組みの構築について検討していく必要がある。	企業や団体ならではの幅広い支援が期待でき、上記目的の一層の推進につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	東京荒川少年少女合唱隊に加え他団体への支援も視野に入れ積極的に推進する。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	ふるさと郷土芸能の祭典	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	金田幸三	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）					
事務事業の種類	新規事業	（ 20年度 19年度 ）		建設事業	それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠	
終期設定	有	無	19年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区民の伝統芸能への理解を深めるとともに、都市間交流事業の充実を図る ・ 荒川区や交流都市に伝わる伝統的な芸能を紹介することにより、区民に感動を与え心豊かな生活を実現する ・ 交流都市の特産品を販売する「ふるさと市」により、交流都市に親しみを有するようアピールする 				
対象者等	区民全般				
内容	<p>区内在住で「荒川区民栄誉賞」受賞された国指定無形民俗文化財指定「江戸里神楽」松本源之助社中と、区の交流都市の郷土芸能とが一堂に会する舞台を区民に提供する事業である。また、出演交流都市の特産品を販売する「ふるさと市」を同時開催する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実施日：平成20年2月3日（日）サンパール荒川大ホール 2 公演時間：約3時間（20分×8組＝160分） 3 出演団体：埼玉県秩父市「白久の串人形」、千葉県鴨川市「和泉の三役」、福島県福島市「飯坂太鼓」、福島県桑折町「半田銀山太鼓」、福島県小野町「小野大倉獅子舞」、福井県「若狭能倉座の神事能」、荒川区「江戸里神楽」、茨城県つくば市「ガマの油売り口上」 4 入場料：無料 				
経過	<p>平成19年度新規事業であるが、第20回川の手荒川まつり記念事業としては平成18年4月に実施している。初めての試みであったが、区民にとってはたいへん印象深く、感動的なイベントとなり大好評を博したため、独立のイベントとして開催することになった。</p> <p>【実施結果】</p> <p>《実施日》平成20年2月3日（日）</p> <p>《来場者数》763名</p> <p>《歳出》4,903,975円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報償費 15,000円（手話通訳者謝礼） ・ 食糧費 185,500円（出演関係者等賄い） ・ 役務費 202,125円（新聞折り込み） ・ 委託料 4,501,350円（運営委託） 				
必要性					
実施方法	（ 二部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						5,023	0	
決算額（20年度は見込み）						4,904	0	
人件費						2,562		
【事務分担量】（%）						30		
合計（ + ）	0	0	0	0	0	7,466	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	7,466	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料			運営委託料	4,904		

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	出演団体数			8			交流都市と荒川区の伝統芸能出演団体の数
	来場者数			800			観客、ふるさと市への来場者数

（問題点・課題分析）	<p>当日は大雪のため悪天候であったが、来場者数も目標の800名近く集まり、内容についても好評を博した。今回は予算の都合もあり、日帰りが可能な比較的近隣の交流都市からの参加が多かったが、次回実施することがある場合は、今回紹介することが出来なかった他の交流都市の中から参加都市を選択する必要がある。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	見直し	伝統芸能に対する区民の理解を深めるとともに、都市間交流の充実を図った。（周年事業）

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	日暮里駅前ひろば文化・交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	奥田徹	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	日暮里駅前ひろば文化・交流事業（07-86-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	20年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	日暮里駅前の再開発事業に伴って作りだされる駅前ひろばを活用し、交流都市の物産展・音楽イベント等を行い、区の芸術文化・地域振興・交流の活性化を図る。				
対象者等	交流都市の物産展（例、秩父市、福井県、福島市等 区民、来街者） 音楽イベント（区民、来街者、区内外のアマチュアミュージシャン他）				
内容	<p>交流都市郷土芸能・物産展 荒川区の交流都市を区民に紹介する物産展の開催。 その都市を代表するような芸術・文化、民俗芸能等の披露。</p> <p>音楽イベント 山手線の駅前であるという地の利を生かして、区内外を問わず参加できるような音楽イベントを開催。</p>				
経過	20年度新規事業				
必要性	山手線の駅前という交通至便な場所で、交流都市の紹介や区内外の多くの方が参加できるイベントを開催することは、区の芸術文化や都市間交流の振興、地域の活性化につながり、必要性が高い。				
実施方法	（一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）							
予算・決算額等の推移		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
	予算額								10,431
	決算額（20年度は見込み）								
	人件費								
	【事務分担当】（%）								
	合計（+）	0	0	0	0	0	0	0	0
	国（特定財源）								
	都（特定財源）								
その他（特定財源）									
一般財源	0	0	0	0	0	0	0	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料					広告・イベント委託	10,431

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	日暮里駅前ひろばでの活用数				2	2	イベントの開催数

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	推進	新たに整備された駅前ひろば等においてイベントを実施し、芸術文化や都市間交流の振興、地域の活性化を図る。

況（要旨）	議（要旨）	問（要旨）	状（要旨）	
-------	-------	-------	-------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	芸術・文化振興プラン策定事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤 宏
		担当者名	金田幸三	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	芸術・文化振興プラン策定事業費(07-92-50-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠	
終期設定	有	無	20年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	すべての区民が幸せを実感しながら生きる上で、芸術文化は人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするとともに、人間性・創造性を育むものである。また芸術文化活動を実践することにより人々の心と体が元気になることは、地域の活性化を図ることになる。芸術文化を振興するための方針を決定するにあたり、荒川区芸術文化振興プランを策定する。				
対象者等					
内容	<p>1 事業の実施期間 平成19年度～20年度</p> <p>2 実施内容</p> <p>【平成19年度】</p> <p>荒川区にふさわしい芸術文化振興のあり方について検討し、その方策を明らかにするために「荒川区芸術文化振興プラン策定に関する懇談会」を開催し、その検討結果を提言としてまとめ区へ提出した。</p> <p>【平成20年度】</p> <p>懇談会から提出された提言に基づき、庁内組織である「荒川区芸術文化振興プラン策定検討委員会」を開催し、「荒川区芸術文化振興プラン」を策定する。</p> <p>荒川区芸術文化振興プランの策定にあたり委員会を設置し、委員会における実務的な協議、検討の場として関係課長及び係長級等による「関係部署ワーキング」を開催し、「荒川区芸術文化振興プラン（案）」を作成する。</p> <p>検討した内容をもとに、(仮称)荒川区芸術文化振興条例制定へ向けた準備・調整を行う。</p> <p>委員会の運営に必要とされる芸術文化分野の専門的な知識、資料・情報収集等や、委員会の運営等プラン策定に伴う支援業務委託契約を行う。</p>				
経過	平成18年12月に荒川区基本構想審議会より提言された「荒川区基本構想 答申 幸福実感都市 あらかわ」に示されている「文化創造都市～伝統と新しさが調和した文化の創出～」を推進するために「荒川区芸術文化振興プラン」を策定する。				
必要性	芸術文化は人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらす人生を豊かにするものである。人々の生活の中に芸術文化を根付かせるために、その指針として芸術文化振興プランを作成し、計画性を持って実施する。				
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

		(単位：千円)						
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額						4,410	4,000
	決算額(20年度は見込み)						3,859	4,000
	人件費						2,391	
	【事務分担量】(%)						28	
	合計(+)	0	0	0	0	0	6,250	4,000
	国(特定財源)							
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	0	0	6,250	4,000	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			懇談会委員等謝礼	481		
	特別旅費			懇談会委員費用弁償	16		
	食糧費			懇談会賄い	13		
	一般需要費			事務用消耗品費	1		
	委託料			懇談会調査委託	3,350	プラン策定支援業務	4,000

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	芸術文化振興プラン実現へ向けた報告書の作成			100			
	芸術文化振興プラン策定				100		
	(仮称)芸術文化振興条例の策定				50	100	21年度制定予定のため、20年度中に骨子を決定する

（問題点・課題）	<p>荒川区民世論調査で行ったアンケート調査の結果内容を、「荒川区芸術文化振興プラン」の内容に反映ができるか。</p> <p>懇談会から提出された提言内容を、20年度のプラン策定の際にどの程度施策の中に反映できるか。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
20年度にプランを策定するため、芸術・文化振興プラン策定事業としては終了する。 しかし策定したプランを実現させるために、いかに進行管理を行うべきか、という課題は残る。	プランとして策定された事業の進捗状況を把握することにより、事業の実現性を高めることが期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	荒川区の芸術文化振興の基本理念・方向性を示すプランを策定する。

（議会要旨）	<p>文化芸術振興条例の制定について（14年2定）</p> <p>仮称「荒川区文化振興条例」の策定について（16年3定）</p>
--------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	公社職員人件費（地域振興公社費）	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	相田真紀	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	公社職員人件費（08-77-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠	地方自治法第232の2、地域振興公社助成条例
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	公共性と収益性のある地域振興のための公益法人を育成することにより、事業の充実や新たな展開をはかり区民サービスを充実させる。あわせて、将来的に区財政の負担軽減を図る。				
対象者等					
内容	<p>本事業は地域振興公社助成事業のうち、職員人件費にかかわるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度（4月1日現在） 常勤職員：事務局長1（固有）、管理係3（うち固有1）、文化事業係3 派遣職員5、固有職員2 非常勤職員4 平成19年度（4月1日現在） 常勤職員：事務局長1（派遣）、管理係3（うち固有1）、文化事業係3 派遣職員6、固有職員1 非常勤職員4 平成20年度（4月1日現在） 常勤職員：事務局長1（派遣）、管理係3、文化事業係3、遊園事業部長1（固有） 派遣職員7、固有職員1 非常勤職員5 				
経過	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年度に荒川遊園の職員は派遣の園長と非常勤6人にして、ACC3館及び町屋文化センターの職員は、ともに派遣職員（各2人）を廃止し、委託とした。本部に施設係を新設し、派遣職員2人を配置した。 平成16年度に本部3係の派遣職員（うち事業係は、固有職員）を1名ずつ減員し、荒川遊園に固有職員1人を配置した。 平成17年度に事務局長を派遣職員から固有職員にした。本部管理係の職員は派遣職員3人のうち1人を固有職員にして、荒川遊園の職員は、派遣職員2人に変更した。 平成18年度から町屋文化センター（所管：社会教育課）及び荒川遊園（所管：公園緑地課）の指定管理者になった。また、地域振興公社の所管課は区民生活部文化交流推進課となった。 平成19年度から局長を派遣職員にした。 平成20年度に荒川遊園事業部長を設置した。 				
必要性	ACCの効率的な運営のため、職員体制の確保は不可欠である。				
実施方法	（ ） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 補助金の交付				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	306,172	179,453	139,403	135,201	78,731	72,385	77,732	
決算額（20年度は見込み）	302,644	162,045	126,392	126,368	70,483	72,385	77,732	
人件費				431	854	0		
【事務分担量】（%）				5	10	0		
合計（+）	302,644	162,045	126,392	126,799	71,337	72,385	77,732	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	302,644	162,045	126,392	126,799	71,337	72,385	77,732	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
派遣職員数	25	12	9	8	5	6	7	
固有職員数	1	1	1	2	2	1	1	
非常勤職員数	15	13	12	12	4	4	5	
	（17年度まではセンター・遊園も含む）							

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		補助金	公社職員人件費	78,731	公社職員人件費	72,385	公社職員人件費

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	派遣職員数	8	5	6	7		17年度までは町屋文化センター・荒川遊園の職員も含む
	固有職員数	2	2	1	1		
	非常勤職員数	12	4	4	5		

（問題点・課題分析）	<p>・組織の職員数が少なく、職員人件費であるため人事異動（年齢の差異）による影響が大きい。（予算要求は現員現給ベースで行うため、人事異動で年齢差が大きいと過不足が生じる。（11年度、13年度は流用対応）</p>
	<p>（実施 区 未実施 区）</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	A C Cの効率的な運営のため、職員体制確保は不可欠である。

（状況）	議（会）質（問）状
------	-----------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	公社運営費（地域振興公社費）	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	相田真紀	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	公社運営費（08-88-40-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠法令等	地方自治法第232の2、地域振興公社助成条例
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	公共性と収益性のある地域振興のための公益法人を育成することにより、事業の充実や新たな展開をはかり区民サービスを充実させる。あわせて、将来的に区財政の負担軽減を図る。				
対象者等					
内容	<p>地域振興公社運営に必要な運営費、理事会評議員会に関する経費、財務管理システム経費を補助する。</p> <p>公社運営費の財源充当として、基本財産利子収入を計上している。（19年度 1,300千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営費：光熱水費、消耗品費、通信運搬費、複写機等賃借料等 ・ 理事会評議員会経費：理事会（12人）、評議員会（20人）開催に係る経費 ・ 財務管理システム経費：データ回線使用料、システム機器リース経費 				
経過	チケットぴあについては、インターネットによるチケット予約により利用が減少しているため、平成17年度をもって事業廃止とした。				
必要性	芸術文化事業の実施団体として、その活動を支援していく必要がある。				
実施方法	（ ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 補助金の交付				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
		予算額	15,484	15,484	9,999	9,841	8,708	8,761
	決算額（20年度は見込み）	14,650	14,650	7,945	9,043	6,481	6,296	7,206
	人件費				431	854	0	
	【事務分担当】（%）				5	10	0	
	合計（+）	14,650	14,650	7,945	9,474	7,335	6,296	7,206
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	14,650	14,650	7,945	9,474	7,335	6,296	7,206
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	運営費削減率（%） （17年度を基準とする）					28	30	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	補助金	公社運営費		8,708	公社運営費	6,296	公社運営費

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	運営費削減率（％）		28	30			17年度を基準とする

（問題点・課題）	<p>公益法人としてのあり方が、指定管理者であったり、芸術文化事業の担い手であったりと多様化してきており、今後、補助金交付を含め補助対象事業の再検討が必要である。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
芸術文化振興プランの策定の中で、芸術文化事業の担い手としての役割をどのように続けていくかを検討する。	指定管理者としての役割と芸術文化事業者としての役割が明確になり、的確な支援範囲が明確になる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	芸術文化振興の担い手としてのACCへの補助が必要である。

議（要旨）	議（要旨）
-------	-------

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	ほっとたうん発行（地域振興公社費）		部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏																					
			担当者名	相田真紀	内線	2521																					
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	ほっとたうん発行（08-88-80-01）																										
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業		それ以外の継続事業																						
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠	地方自治法第232の2、地域振興公社助成条例																						
終期設定	有	無	年度	法令等																							
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画																					
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]																									
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]																									
	施策	芸術・文化の振興[09-01]																									
目的	区内で行われる各種イベントや地元のお店、荒川区出身の著名人などを紹介し、区の広報誌では伝えきれない情報を区民へ提供する。																										
対象者等																											
内容	<p>地域振興公社助成事業のうち、情報提供事業である「ほっとたうん」の発行にかかわるものである。</p> <p>発行部数 75,000部 毎月1回新聞折込で区内全域に配布する。（朝日、読売、毎日、日経、産経、東京新聞 70,000部） 荒川区内 駅スタンド、荒川区施設に配布。 6ページ（平成18年度以前は年間で4ページが10回、8ページが2回） オールカラー（平成18年度以前は中面モノクロ）</p> <p>広告料</p> <table border="0"> <tr> <td>大広告2・3・4・5面</td> <td>1コマ</td> <td>70,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1/2コマ</td> <td>35,000円</td> </tr> <tr> <td>6面</td> <td>1コマ</td> <td>80,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1/2コマ</td> <td>40,000円</td> </tr> <tr> <td>ミニ広告</td> <td>1行</td> <td>600円</td> </tr> </table>						大広告2・3・4・5面	1コマ	70,000円		1/2コマ	35,000円	6面	1コマ	80,000円		1/2コマ	40,000円	ミニ広告	1行	600円						
大広告2・3・4・5面	1コマ	70,000円																									
	1/2コマ	35,000円																									
6面	1コマ	80,000円																									
	1/2コマ	40,000円																									
ミニ広告	1行	600円																									
経過	<p>制作発行はS.63年度開始より㈱東京読売サービスに委託。H.15年度から見積競争により(有)新聞制作センターに変更した。H.19年度からは6ページ、オールカラーにしエイト印刷㈱に委託している。</p> <table border="0"> <tr> <td>H.14年度契約額</td> <td>18,867,000円</td> <td>4ページ10回、8ページ2回、中面モノクロ・2面カラー</td> </tr> <tr> <td>H.15年度</td> <td>15,029,676円</td> <td>3,837千円</td> </tr> <tr> <td>H.16年度</td> <td>15,061,176円</td> <td>32千円(共同通信社 写真賃借のため)</td> </tr> <tr> <td>H.17年度</td> <td>15,397,176円</td> <td>336千円</td> </tr> <tr> <td>H.18年度</td> <td>15,397,176円</td> <td>同額</td> </tr> <tr> <td>H.19年度</td> <td>20,953,800円</td> <td>5,557千円 6ページ12回、オールカラーに変更</td> </tr> <tr> <td>H.20年度</td> <td>20,953,800円</td> <td>同額</td> </tr> </table>						H.14年度契約額	18,867,000円	4ページ10回、8ページ2回、中面モノクロ・2面カラー	H.15年度	15,029,676円	3,837千円	H.16年度	15,061,176円	32千円(共同通信社 写真賃借のため)	H.17年度	15,397,176円	336千円	H.18年度	15,397,176円	同額	H.19年度	20,953,800円	5,557千円 6ページ12回、オールカラーに変更	H.20年度	20,953,800円	同額
H.14年度契約額	18,867,000円	4ページ10回、8ページ2回、中面モノクロ・2面カラー																									
H.15年度	15,029,676円	3,837千円																									
H.16年度	15,061,176円	32千円(共同通信社 写真賃借のため)																									
H.17年度	15,397,176円	336千円																									
H.18年度	15,397,176円	同額																									
H.19年度	20,953,800円	5,557千円 6ページ12回、オールカラーに変更																									
H.20年度	20,953,800円	同額																									
必要性	芸術文化事業の情報提供に不可欠な情報誌である。																										
実施方法	() (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 補助金の交付																										

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	13,189	8,546	7,858	8,471	8,198	8,198	8,198	
決算額（20年度は見込み）	11,749	6,519	7,810	8,471	8,198	8,198	8,198	
人件費				431	854	0		
【事務分担当量】（%）				5	10	0		
合計（+）	11,749	6,519	7,810	8,902	9,052	8,198	8,198	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	11,749	6,519	7,810	8,902	9,052	8,198	8,198	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	大広告件数				113	95	108	
	ミニ広告件数				217	257	182	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	補助金	ほっとタウン発行	8,198	ほっとタウン発行	8,198	ほっとタウン発行	8,198

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	大広告件数	113	95	108		120	
	ミニ広告件数	217	257	182		220	

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
各号のページ増を図るよう、ACCに働きかけていく。	区内で行われる各種イベント情報を発信することにより、区民に身近な情報の提供を拡大できる。
広告件数の拡大を図るよう、ACCに働きかけていく。	広告収入増により、ほっとタウン発行経費の削減につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	芸術文化や地域振興のための情報提供に不可欠な情報誌発行事業である。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	芸術文化・地域振興事業（地域振興公社費）	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	石澤宏
		担当者名	相田真紀	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	芸術文化・地域振興事業（08-88-90-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 63 年度	根拠			
終期設定	有 無 年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	サンパール荒川、日暮里サニーホール、ムーブ町屋などの区民ホールで、芸術文化事業を公演することにより、荒川区における芸術文化の振興と区民文化の活性化を図る。				
対象者等					
内容	<p>地域振興公社事業のうち、芸術文化及び地域の振興にかかわる事業に対する補助である。</p> <p>主な事業 [芸術文化事業] 荒川区民交響楽団・荒川第九を歌う会の出演による第九演奏会、劇団四季ファミリーミュージカル 等（その他） 17年度 南こうせつ・羽田健太郎コンサート、松竹歌舞伎、親子で楽しむファミリーコンサート、ジャズコンサート 等 18年度 玉置浩二、新垣勉おしゃべりコンサート、東京バレエ団公演、子ども映画会、モーツァルト生誕250年記念コンサート 等 19年度 さだまさし・堺正章・井上順・和太鼓「は・や・と」・戸部豊・石井弘・竹下ユキコンサート、アメリカンベースボール、荒川“爆笑ライブ”07・荒川フラフェスティバル 等</p> <p>[地域振興事業] 小泉定弘写真展、ふれあいミニコンサート、都電荒川線写真コンテスト、千脇隆展 等</p>				
経過	<p>開始当初は、芸術文化事業費と地域振興事業費を別々に補助を行っていた。</p> <p>しかし、駐車場収入及び荒川遊園自主事業収入により精算金が発生し、荒川区への返還額があるため、芸術文化事業については、平成10年度はACC自主事業のうち区民参加型事業に対してのみ補助を行い、平成11年度より休止とした。また、地域振興事業費についても、平成12年度より中止となっていた。</p> <p>平成15年8月15日荒地区第438号-2において決定した「（財）荒川区地域振興公社の自主事業収入の取扱について」により、西日暮里スタートアップオフィス駐車場及び施設のACCへの無償貸与取り止めにより収入が減少したこと、及び区民の文化振興に必要な事業については、その必要額を区がACCに直接補助することが本来のあり方であるとの考えを踏まえ、平成16年度より芸術文化・地域振興事業の補助を交付することとした。</p>				
必要性	ACCの最も重要な使命である芸文事業実施のための補助で、優先的な対応が必要である。				
実施方法	（ ） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 補助金の交付				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額			12,000	11,347	16,347	16,347	19,347	
決算額（20年度は見込み）			10,654	11,347	16,347	12,911	19,347	
人件費				431	854	0		
【事務分担当量】（%）				5	10	0		
合計（+）	0	0	10,654	11,778	17,201	12,911	19,347	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	10,654	11,778	17,201	12,911	19,347	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	チケット収入率（%）			58	51	42	65	
	参加・体験型事業件数				14	10	13	
	芸術文化・地域振興事業来場者数			26,171	25,347	37,296	36,253	

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
補助金	芸術文化事業	10,347	10,347	芸術文化事業	10,347	芸術文化事業	10,347
	地域振興事業	6,000	2,564	地域振興事業	2,564	地域振興事業	6,000
						吉村昭記念イベント	3,000

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	チケット収入率（％）	51	42	65		70	自主事業収入額÷支出額
	参加・体験型事業件数	14	10	13		18	
	芸術文化・地域振興事業来場者数	25,347	37,296	36,253		40,000	

（問題点・課題）	<p>・現在の事業はホール等で作品を鑑賞するものがほとんどを占める。これからの芸術文化事業のあり方として、参加・体験型事業の実施が求められている。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
A C C と協議し、参加・体験型事業を増やすよう働きかけていく。	区民が自らも参加することにより、芸術文化をより身近に楽しむことができるようになる。また、事業への参加が区民の生きがいを見つけるきっかけづくりにもつながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	A C C の最も重要な使命である芸術文化事業実施のための補助で、優先的対応が必要である。

議会議況（要旨）	
----------	--